



活動現場から、「このたびカタチになりました」

当事者の言葉を届け、地域に「優しいまなざし」を広げる

相談・まなび塾は、2024年12月に活動記録として「優しいまなざし 2年目の取組み記録集 一保護者・こどもの声・指導者から」を発行しました。タイトルには、不登校児やその家族を、学校・地域の大人たちが「優しいまなざし」を持って見守り、子どもたちが安心して生活できる地域社会をつくってきたいという思いが込められています。相談・まなび塾は、元校長などの教師たちが不登校の子どもたちに寄り添い、子どもの主体性や勉強への意欲を育む学習塾です。現在は小学生から高校生までの15人が通っています。学校や勉強、家庭環境の悩みを聞くなかで1人ひとりと向き合い、子どもとの信頼関係を築くことを大切にしています。

記録集の内容は、親からの寄稿と子どもたちからの声を中心です。親の視点から見た子どもの成長や塾への感謝の言葉が綴られています。子どもたちからは、「先生が自分のことをしっかり見てくれるから、塾に通うことが楽しい」という声も寄せられています。塾長の小野英男さんは、「小さな変化も子どもにとっては大きな一歩。子どもが変わっていくことで、親も笑顔になる」と話します。記録集は、同じ悩みを持つ人の励みに、また、支援者たちのヒントにもなります。

※記録集は、サポセンで読むことができます。



▲「記録集が誰かの役に立てば」と願う小野先生

相談・まなび塾

TEL 090-9355-7968

Mail sodanmanabi@gmail.com

HP▶



活動を支える、人、モノ、こと「募集して」

一緒に長町を盛り上げる仲間を募集！

太白区長町エリアの活性化に取り組む一般社団法人ながまちマチキチでは、一緒にまちづくりをするボランティアメンバーを募集中です。その名も「MACHIKICHI Friends」。地域を盛り上げるイベントの運営、広報活動、コミュニティスペースの運営補助など多様な関わり方が可能。楽しいことを考えたり実現したりすることが好き、地域とつながりをつくりたい、そんな人におすすめです。



▲仲間との時間を楽しもう！

募集要項

募集人数：50名程度

対象：仙台近郊に居住、通勤する人

登録費用：500円/年

※ボランティア保険加入費用含む

活動期間：2026年3月まで

活動期間中、自分のペースで、得意なことで参加可能

▲申込みフォーム
(随時募集中)

一般社団法人ながまちマチキチ

TEL 080-6049-5667

Mail nagamachi.machikichi@gmail.com



▲HP

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日 6月11日(水)、25日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

[ホームページ] <https://sapo-sen.jp>[サポセンブログ@仙台] <https://blog.canpan.info/fukkou/>「ぱれっと」バックナンバーは
ホームページからダウンロードできます。

ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行

仙台市市民活動サポートセンター
(指定管理者：特定非営利活動法人
せんだいみやぎNPOセンター)

発行日 2025年6月1日

デザイン PEACE Inc.

[X(エックス)]

@SCSC4CA

[YouTube]

サポセンちゃんねる



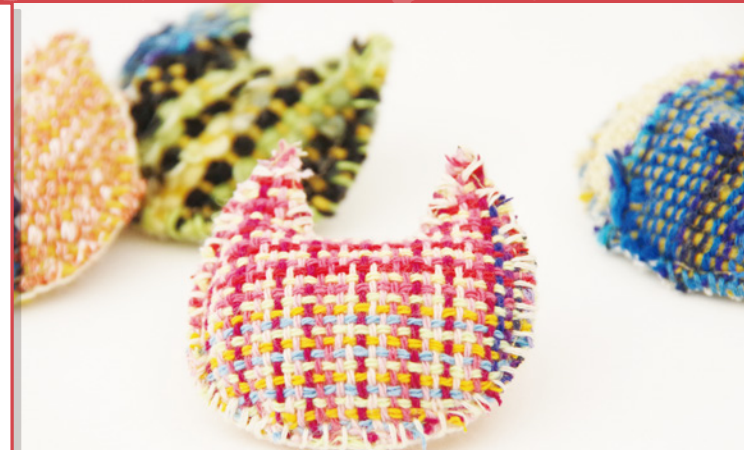
はねっと 6

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと

特集

誰かのために、自分のために
つながり楽しむ服の交換会

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

活動を始める
一歩を応援
「コトハジメ」障がいのある人の活躍を
応援しよう！

NPO法人ヘゼリヒプラインは、仙台市宮城野区で就労継続支援B型事業所「工房すぴか」を運営しています。目指すのは、すべての人が成長できる社会、社会参加できる社会、自分らしく居られる社会です。GEZELLIG(ヘゼリヒ)というブランドを立ち上げ、工房に通う障がい者が布を織ったり縫ったりして作った、ギターやカメラのストラップ、ベルトなどのファッション小物を販売しています。

NPO法人ヘゼリヒプライン
工房すぴかTEL 022-781-5272 Mail spica@gezellig.jp

〒983-0038 仙台市宮城野区新田1丁目5-44



▲団体HP

使わなくなったミシンや布を寄付して応援

生産数の増加に伴い、現在、ミシンの寄付を呼び掛けています。また、裂き織りの素材として、カーテンのような一枚布や、ワンピース、着物のような大きな身頃で色鮮やかな服も、募集しています。「寄付したい」という場合は、メールまたは電話にて事前に連絡を。ミシンを寄付する場合は、メーカー名と型番をお知らせください。
※発売から6年以上経過したミシンは故障の恐れがあるため受付していません。

カラフルな小物を買って
暮らしに彩りをプラス

寄付されたミシンや布などを使って作られた商品は、ブランドのオンラインショップ工房すぴか内の店舗、市内一部のカメラ店や楽器店で購入できます。障がいのある人たちが、既成概念に囚われない創造力で、大胆に組み合わせた色使いが人気です。



▲オンラインショップ



特集

協働による活動事例を紹介「ちまたのコラボ」

誰かのために、自分のために つながり楽しむ服の交換会

まだ着られるけれど自分ではもう着ない服を、着たいと思う誰かと交換できるイベント「Sendai Re:Fashion Day（以下、仙台リファッションデー）」が仙台で行われています。服を通して、知らない人であっても思いを寄せたり、持続可能な社会について考えたりしてもらおうと行われている、協働の取り組みについてご紹介します。



株式会社THECLO

代表取締役

ふじなみ じゅん

藤波 純 さん

洋服のシェアリングサービス事業を手掛ける企業。仙台リファッションデーの前身イベント「服の交換会」を2021年12月から社会貢献事業としてスタート。



仙台 リファッションデー 実行委員会 (以下、実行委員会)

「服の交換会」開催当初から、運営の手伝いとして参加していた仙台市内の学生4人が、2023年に結成。現在メンバーは5人。



面白い
取り組みだから
リピートしてる

子どもの服は
すぐサイズアウト
するから助かる

予約制の
入場だから
混雑せず選べる

2025年3月22・23日、仙台市宮城野区の東北福祉大学ギャラリーミニモリにて、仙台リファッションデーが行われました。2023年から年2回程度、実行委員会と株式会社THECLOが協働して開催しており、モットーは「服を捨てずに衣替えを楽しむ」です。持参した洋服1点につき、会場内の洋服1点を持ち帰ることができ、最大3着まで交換できます。2日間で約164人が参加し、455着の服が交換されました。会場には地域企業によるPRブースや、焼き菓子・雑貨などの販売ブースもあり、次のシーズンに着たい服だけでなく、行ってみたい・触れてみたい、まちの新たな情報に出会うことができます。目指しているのは、服の交換をきっかけに地域の誰かと自然につながり、助け合える社会の実現および、服の廃棄削減です。

1 ねらい

ちょっとしたことで、
誰かが喜ぶことにつながることもある



楽しむことを忘れない
実行委員会のおかげで、
運営側が何かを
提供するだけのイベント
にならなかった。



多くの人にとって、「所有する」が「捨てる」だけの服への意識に、「シェアする」という選択肢を増やしたいと考えていた藤波さん。「いきなり他人とシェアするのはハードルが高くて、着ない服を交換することからなら始めてもらえるかも」と思い付いたのが、服の交換会です。服のシェアリングサービスを浸透させる一歩としてだけでなく、環境負荷削減にも貢献できることからスタートしました。

一方、イベントを手伝う中で「自分たちの力でも通用するんだ」「もっとまちを盛り上げたい」と、手ごたえや意欲を膨らませていったのが、現在の実行委員会をつくった学生たちです。見ず知らずのまちの人たちが服を介して集まり、つながっていくワクワク感を、より多くの人と共有したいと考えるようになっていきました。

2 ポイント

「このまちをもっと知りたい」という
気持ちが幅広い人を巻き込むきっかけに



当初の来場者は、服の大量廃棄に関心を寄せる40～50代が中心でしたが、実行委員会による若者の視点を生かしたSNS発信や、友達を通じての口コミ拡散により若者の参加も増加しました。また、実行委員会メンバーは、訪れたまちの人や協賛企業と関わるうちに、「まちのことをもっと知りたい」と思うように。そこで挑戦したのが、地域の企業や店とのコラボレーションです。PRスペースの提供や、お菓子・雑貨の代理販売を行いました。訪れた人は、「ちょうどこのお店が気になっていた」「地域にこんなベンチャー企業があったなんて」と、驚くこともしばしばです。

SNSを通して、
出品する服の
コーディネートを発信



3 これから

地域の人との交流を広げ、
続いていくイベントに



実行委員会の立ち上げメンバーの多くは2024年3月で大学を卒業し、活動から離れましたが、SNSや口コミをきっかけに加入した新メンバーが活動を引き継ぎました。「古着が好き」「友達に誘われて」などきっかけは様々です。株式会社THECLOと実行委員会、協力企業、仙台リファッションデーを訪れる人と、楽しさから広がった人の輪は、まちの誰かへの関心や、助け合いの気持ちを生み出し続けます。



▲代理販売を行う実行委員

Sendai
Re:Fashion Day

センダイ リ ファッションデー



▲Instagram